国土交通省
道企 第536号
19.5.31

２００７年(平成１９年)４月２６日

国土交通省道路局長

藤沢市長　山本捷雄

今後の道路政策や道路の整備・管理について(回答)

藤沢市は、都心から50ｋｍ圏に位置し、観光・保養・住宅地として、また工業・商業都市として発展してまいりました。近年は、文化施設や大学などの立地が進み、学園・文化都市としての性格も加わり、多面的な機能を有する都市となっております。現在、人口も４０万人を超え、湘南の経済、文化の中心的都市として、さらに発展を続けております。

そのなかにあって、都市形成の基盤となる道路整備は最重要課題であり、特に高規格幹線道路である自動車専用道路の建設促進とインターアクセス路の整備促進が急務であると認識しているところであります。しかしながら、本市においては高速道路へのアクセスが脆弱であるが故に、近年では、大規模工場の市外転出等による産業の空洞化が進んでおります。さらに、県央の拠点都市との連絡路であり、本市南北軸でもある県道藤沢厚木線は部分的な供用となっていることから、市内の既存道路への交通負荷が大きくなっているのが実情であります。また、県道藤沢厚木線以外の県道整備も立ち遅れており、なかでも藤沢駅周辺地域の国道４６７号、県道藤沢鎌倉線の慢性的な交通渋滞は都市機能の著しい低下をもたらしております。

そのため、本市では東西の通過交通を円滑に処理する自動車専用道路として新湘南バイパスの横浜方面への延伸について、その整備促進を国に要望し、湘南地域と横浜、県央地域との連絡強化に繋がる主要幹線道路の整備促進を県に要望するとともに、市内の幹線道路網を補完する都市計画道路の整備に努めてまいりました。

圏央道の一翼を担う横浜湘南道路も工事に着手され、平成２７年度の開通が予定されております。首都圏の中核的な都市との連絡強化が図られる自動車専用道路の整備は、地域産業の発展に必要不可欠で、かつ、優先度の高い重要施策であり、あわせて県道藤沢厚木線と東名高速道路との交差部への新たなインターチェンジ設置やそこにアクセスする幹線道路の整備は、喫緊の課題であると考えております。

一方、市内の拠点を結ぶ都市内連絡道路については、整備率がようやく７０％を超えたところでありますが、特に旧来の市街地における整備が立ち遅れ、日常の市民生活や災害時の救援活動への支障が憂慮されるため、これらの課題解決に向けた取り組みを今後も継続して実施してまいりたいと考えております。

昨今の社会経済情勢のなか、とりわけ道路行政を取り巻く環境は非常に厳しいものと推察いたしますが、地域活動や経済活動を支えるためには環境に配慮した安全で快適な道路がぜひとも必要であり、道路整備を円滑に推進するための十分な財源を確保していくことがますます肝要となってまいります。そして、道路整備を効率的にすすめていくには、真に必要となる道路への「予算の集中と選択」によるスピーディーな整備が求められております。

藤沢市の輝かしい未来に向け、「市民一人一人が一生安心して暮らせるまち」を実現するために、道路整備は欠くことのできない重要事業であり、今後とも、将来を展望した施策の展開を強く望んでおります。

別添資料

今後の道路政策や道路の整備・管理について

1，重点化を進める上で特に優先度の高い施策

地域産業の発展に必要不可欠な首都圏の中核的な都市との連絡強化が図られる自動車専用道路（横浜湘南道路）の整備。

県道藤沢厚木線と東名高速道路との交差部への新たなインターチェンジ設置やそこにアクセスする幹線道路の整備。

2，効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと

真に必要となる道路への「予算の集中と選択」によるスピーディーな整備。

3，その他の意見

旧来の市街地における日常の市民生活や災害時の救援活動を支える道路の整備。

環境に配慮した安全で快適な道路の整備。

道路整備を円滑に推進するための充分な財源の確保。